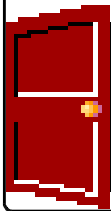


令和5年度《昨年度に続き、今年度も読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》



読書活動への扉を開く！

N o 76

桑村小学校令和6年1月16日 文責 渡邊

私たちはできるという自信がイニシアチブへつながっていく!!

『小学校時報12』（全国連合小学校長会 第一公報社 令和5年12月）に、高知中学高等学校長の永野氏の文章が載っていました。「未来に前例はない。迷ったら新しい道を選べ」というタイトルで、その一部を下記に紹介します。

彼らは考える。前例踏襲は、何もしないことだと。

この先は、極めて不透明で、不確実な時代と、識者は声を揃える。正解はどこにあるのか。迷ったら新たな道を選ぶ勇氣も必要だ。また、その判断には確かな学びと多様な経験が糧となる。その場づくりに手は抜けない。（表紙裏面「今日のことば」より）

今回の冊子の内容は、令和5年10月19日（木）、20日（金）の2日間、東京国際フォーラムホール等を会場に開催された「第75回 全国連合小学校長会研究協議会東京大会」の記録を中心に掲載されています。

私もこの大会に田方地区の小学校長を代表して参加し、その貴重な2日間の研修をついこの間のことのように思い出されます。

特に印象に残っているのが、アース製薬株式会社 社外取締役 ハロルド・ジョージ・メイ氏の「子どもたちが将来、いきいきと活躍するために必要なこと」と題して話された記念講演です。

メイ氏は、ビジネスの観点から、教育に大事なこととして次のように話されました。

「リーダーシップに欠かせない要素は、イニシアチブが取れることです。イニシアチブとは、上から言われてやるのではなくて、自分から事を起こす、自分から意見を言う、自分からプロジェクトを始める、こういう能力のことです。（中略）

起業家精神をあげる要素の一つは、失敗を恐れないということです。失敗から何を学ぶか、その学びをどう他の同僚に共有化するかが大切です。だからこそ、また新しいことをやってみよう、次に繋げようという精神が生まれると思います。大胆な試み、大胆な目標を抱えることによって、大きく空気が変えられる。それが成功することで自分たちはこんなにすごいことができるんだという空気感に変えられます。今までにないような発想、突破口のようなアイデアが出てきます。「我々にはできる」という自信があれば、イニシアチブにもつながり、もっとリスクを取ろうといういわゆる起業家精神にも繋がっていくと私は思います。」（『小学校時報12』P28. 29より引用）

未来を見据えた子供たちの成長を考えたとき、持続可能な社会と幸福な人生の創り手となる力を育むことが必要となるように思います。

それには、私たち教師自身がいかにイニシアチブを大切にするかが問われます。前例踏襲にとらわれることなく、子供とともに新しい学びにチャレンジしていくのです。こうした体制が構築できたとき、子供の中に、きっとわたしたちならできるという自信が生まれ、イニシアチブが形成されるのではないのでしょうか。

これからも新しいことにチャレンジする気持ちを大切に、教育活動を推進していきたいと強く思います。【みんなで創った『くわにんじん』】

